

特集

長期的な視点で考える日ロ関係

「近くて遠い隣国、ロシア」。物理的な距離は変わらないものの、ウクライナ侵攻により、われわれ日本にとって再び遠い国になろうとしている。北海道では隣接する極東地域をはじめとして、ロシア各地とさまざまな取組を産官学それぞれの視点で進めてきたが、住民同士の往来が途絶え、企業間の取引も困難になっている。この戦争がいつ終わるのか、再び日ロの交流が進みはじめるのかは、誰にも想像がつかない。しかし、長期的な視点に立てば、われわれ北海道に住む者としてはロシアとの良好な交流は経済的にも安全保障の視点でも重要であることは変わらない。

本特集ではこれまでに築いてきた関係を絶やさず、新たな信頼関係を築くためにはどのような方策が必要か、5年、10年先の将来を見据えて考えていきたい。

インタビュー

隣国ロシアとどう付き合うか

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授

田畑伸一郎氏

ソ連崩壊直後からロシア経済の研究を続け、2023年3月に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターを退官される田畑伸一郎教授に、これまでの30年間の日ロ経済関係の変遷を踏まえ、日本、北海道として将来的にはロシアとどのような交流が考えられるか、そのために今なにをなすべきかお話をうかがった。

(聞き手…一般社団法人北海道総合研究調査会(HIT) 理事・情報企画部長 富樫巧)

1. これまでのロシアの変化、今後の見通し

富樫… ソ連崩壊前後からロシアのマクロ経済の視点で研究されてきて、この間にロシアの一般の人たちの生活がどのように変わったかお話しいただければと思います。

田畑… 明らかに良くなっていると思います。ソ連最後のころと1990年代は経済が混乱し格差が広がりました。プーチンが政権を取った2000年代ごろからロシアが安定的に成長し、1998年以降G8のメンバーにもなりました。あのころに生活水準が上がったと思います。

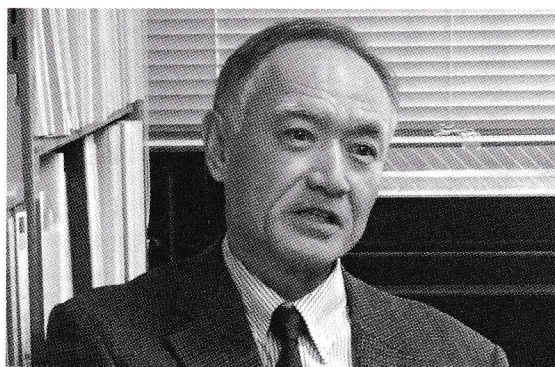
当時はモスクワ等大都市圏だけでなく、地方の拠点都市でも経済発展がみられました。ロシアには15くらいの100万都市があり、恩恵を受けたと思います。極東ではウラジオストクやハバロフスクが人口60万人、ヤクーツクが30万人、ユジノサハリンスクが20万人ですが、これらの都市でも相当変わりました。立派なお店でもできましたし、100万都市以外でも十分、経済成長の恩恵があったと思います。他方、ソ連時代の企業城下町のような都市の多くが閉鎖され、極東でも人口が減りましたが、市場

経済、資本主義への移行ですから仕方がないです。これらの政策的な拠点都市は人為的に配置されていました。

富樫… 今回の紛争においてプーチン大統領の信任は地方都市で非常に高いのですが、地方住民がこれらの経済安定を彼がもたらしたと考えているからでしょうか。

田畑… 大都市、中規模の工業都市、そして農村に分けて考えましょう。反プーチンの抗議、自由を求めた運動が起きたりするの、やはり大都市なのです。中規模の都市や農村ではそのようなことに関心がなく、日々の生活に関心があります。90年代に比べてロシアの生活が良くなったのは間違いありませんから、強ちにプーチンを支持しているように思います。

昨年10月にヤマル（シベリア北西部・北極圏に位置する）から来た人と話した時に、動員令発令まではほとんど戦争とは関係ない生活を送っていたと仰っていました。シベリアに住んでいたら遠い世界で起きている話であって、自分の生活には何も影響がなかったということです。動員令が発令されて知人が動員されたりするわけで、初めてそこで動揺を感じたと聞きました。大都市を除いて国民は政府が発信する情報を信じています。



田畑 伸一郎 氏

1986年（昭和61年）、北海道大学スラブ研究センター助教授、1997年（平成9年）から同教授。2004年（平成16年）から2006年（平成18年）までと2015年（平成27年）から2017年（平成29年）まで同センター長、2008年（平成20年）から2013年（平成25年）まで新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」領域代表。

ロシア経済の数量分析・制度分析を専門とする。とくに、国民所得、財政、対外経済関係を分析する。

富樫… 田畑先生はソ連時代から訪ロシアしていましたが、ロシア人の生活の変化をどう感じられていますか。

田畑… ゴルバチョフ時代の後半、モスクワは物不足で酷かったです。比較的いろいろなものが手に入る外国人向けの特別な店舗（ドルショップ）があり、ロシア人も利用できますが、ドルを持つてなければそこで買い物はできません。モスクワのレストランにおいてランチやディナーでサービスを受けるようになったのは2000年代以降のことで、それまでは大変でした。

このような90年代を知っている世代と、90年代に生まれた世代では考え方が違います。後者は2000年代以降のことしか知りません。このような若い世代は今ロシアを離れようとしています。統計には出て来ませんが、相当出国していると思います。われわれの仲間の研究者はチャンスがあればどこか海外に出ようと考えています。タジキスタンやキルギス等が一番行きやすいのでしょうか。ITや金融など才能のある人は仕事を見つけやすく、この紛争による混乱が長引いたら、まだまだ出て行くのでしょうか。

富樫… 5年くらいで普通になってくれるとありがたいですね。

田畑… そう思います。2024年が次の大統領選挙です。プーチン大統領は後継者が育たないようにしていますからね。本来は次の世代の才能を見出して引き上げてくれる人が必要でしょう。2000年代はロシアが大混乱の時にプーチンが出て来て、国をまとめて、それなりに財政などで評価されました。

富樫… この20年ぐらいでロシア人の生活だけでなく、仕事の進め方も変わってきたという印象があります。契約遵守という考え方も根付いていたと思います。また地方に行くと、良い悪いは別にして、小さな汚職がかなり減りましたよね。以前は空港でお金をせびられることもありました。

田畑… 2000年代になって外国からの投資も入り、ロシアの中に西側の企業がでるという状況で、普通にビジネスをしている方たちが増えてきているので、西側企業と一緒に仕事をしているとそうなってきたのでしょうか。ただし、今回の紛争下、経済制裁に対抗してプーチンが下した決定の多くが諸外国企業との信頼関係の根本を揺るがしてしまいました。

自分の付き合いのあった経済学者などはロシアを離れた人も多いです。ビジネスをしている方を含めて、今回の紛争で得をす

ると思っている人はいません。長引けば長引くほど状況は悪化することは容易に想像できます。このまま西側のロシアに対する信頼がなくなり、しばらくロシアに投資しないことが一番の問題だと思います。西側との交流がなければ技術力でもロシアと他国とのギャップが広がってしまいます。そのギャップを埋めるためにもさらにFDI（海外直接投資）が必要になりますが、よほどロシアが変わらない限りなかなか進まないと考えます。

2. 隣国ロシアとの付き合い方

富樫… 北海道に住んでいる私たちにとって一番近い外国はやはりロシアです。ソ連時代も外務省がサハリンに領事館を作る前から北海道はサハリン事務所を拠点に地域間交流をし、それが少しずつ繋がっています。今後、ロシアという国と北海道・日本はどのような形で付き合っていけばいいのでしょうか。

田畑… 今の状況が永遠に続くわけではなく、どのような形か分かりませんが、長くても10年くらいで終わると思います。そうなったら一番近い外国だというのは間違いありませんし、ロシアから見ても一番近

い日本が北海道だということのも間違いありません。

す。ロシアを飛び出してくるロシア人を米

とありかたいですね。

している方を含めて、今回の紛争で得をす

違いありませんし、ロシアから見ても一番近

い日本が北海道だということの間違いありません。その時には、北海道にとって一番進出しやすい国ですし、うまくいけば利益が出るのは変わらないと思います。

富樫… 企業の多くは、恐らく当面はロシアとのビジネスは縮小せざるを得ないですが、これが永久に続くことはなからうと思っています。一番、危惧されるのはその間に日本側でロシアと何かをやろうとすると人材も企業もなくなってしまうことなのではないかと思っています。

田畑… その対策として考えられるのは、今のうちにロシア人を雇っておくことではないでしょうか。ロシアで外国へ出たい優秀な若者たちを今のうちに確保して、彼らを使い他の外国とのビジネスで使っておくというのはどうでしょうか。人材が大事で

す。ロシアを飛び出してくるロシア人を米国など他国は求めています。日本も受け皿になって、ある程度優秀で頼りになりそうな人材を育てておくということがアドバンテージになると思います。

富樫… 北海道の企業がロシア人を使ってみる良いタイミングでしょうか。

田畑… 拒否反応がなければ、そうだと思います。安く良い人材を入手できるチャンスだという気はします。

日本が拒否したら、どこか別の国に行ってしまうと思います。日本に来てくれた方がいいです。ロシアの政府系機関を経由せずに直接応募してもらうのがいいと思います。日本政府も問題なくロシア人へビザを出していますので障害はありません。

3. 将来を見据えた人材交流の重要性

富樫… 日本に来たいと考えるロシア人は今もいるのでしょうか。

田畑… 北海道大学を例にとれば、以前と比べても決して減っていません。北海道大学は極東5つの大学と交流しています。公的な教育プログラムは基本的に停止状態にありますが、大学としては個人で来る分には拒まないという方針です。向こうの学生たちが手を挙げて来ます。北海道大学ではロシアのパートナー大学にリエゾンオフィスのようなものを作り、そこと北海道大学の国際部との間で関係が維持され、留学生はそこを通じて受け入れています。

北海道大学では日ロ交流として招聘事業

特集 東京発！クラフトSAKE 100

久住昌之 多摩産のビールであわあわ

柏江 龍屋ブルワリー／三鷹 OGA BREWING／昭島 イサナブルイイング

パブリック 中央線クラフトビールメラン

立川 坂道ブルイイング／武蔵境 26Xブルワリー／高田等 アンドビール ほか

古く今 亭駒治 ファンキーな東武東上線沿線を行く

小川町 麦雑穀工房マイクロブルワリー／下板橋 クラシクビール ほか

座談会 藤原ヒロユキ×岡住修兵×林生馬

今、「クラフト」が熱い理由

パブ併設！ 醸造所・蒸溜所散歩

どぶろく▽兜町平和どぶろく兜町醸造所／浅草 木花之醸造所

ワイン▽御徒町 葡蔵人 Book Road

ジン▽蔵前 東京リバーサイド蒸溜所

ビール▽北住さかづき Brewing／東陽町 ガハビール

区市町村別 TOKYO 醸造所と蒸溜所リスト 監修：文・川野亮

女優・劇団新派

波乃久里子 インタビュー（後編）聞き手・児玉竜一

歌舞伎の申し子、二代目中村吉右衛門

3月号 2月3日発売

■定価950円 本体864円

東京人 ③

都市出版

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-12 NBC飯田橋ビル6F

などは継続されています。以前は国際委員会を作り、北海道大学の副学長と向こうの学長・副学長との会議がありました。もちろん今はやっていません。また、今は北海道大学の学生をロシアに派遣する訳にはいきませんので、ロシアへの派遣は止め、北欧のフィンランド、スウェーデンあたりに派遣している状況です。

富樫… 大学間交流は完全に止まっているわけではないということですね。

田畑… それは完全に止めるべきだという議論もあり、昨年の4月以降繰り返し議論されてきましたが、私は続けた方がいいだろうと思います。若い人は来てもらった方がいいですし、極東の若者はSNSなどいろいろな情報を持っていますが、われわれがこの戦争をどう見ているのかを感じてもらった方がいいと思います。今後の関係のことを考えても、若い人に数多く来てもらった方がいいと思います。なんとか学生交流は維持する方向で進めたいと思います。

富樫… そのような取り組みの中で日本を理解するロシア人を増やすということでしょうか。

田畑… そう思います。ロシアの学生は押し並べて優秀で、勉強しています。日本の学生にも刺激になります。今の状況を考え

ると、日口でできる交流はほとんどなく、学生交流ぐらいいしかロシアとの関係でできることはありません。ただ長い目で見たら、それが一番大事です。5年後や10年後まで考えたならプーチンがいなくなるわけですから、ソ連時代を知る世代も少なくなっているはずですね。

富樫… 大学でも先生のようにロシア人をわかっている人ばかりではないと思います。他の学部の方も同じような考えでしょうか。

田畑… 学内でもロシア人留学生がいるのなら講義をしたくないと言う人はいます。われわれのスラブ・ユーラシア研究センターの国際会議にロシア人を招くと、他国の参加者の中にはロシア人が同席するのは嫌だと言われることもあります。では、そのロシア人がいまアメリカにいたらどうですかと……。何年前にロシアを出た人ならば良いなどと線引きできませんので、その分け方はおかしいです。やはり個人としてみるべきだと思います。

富樫… ロシアの現政権の発言（プロパガンダ）や公表されるプーチンの支持率から考えると、国際的に、今はロシア全て憎しという感じになっているようです。ふだんロシア人と付き合いがなかったらロシア人の良さも分からないと思います。

田畑… 報道ではロシア人全員が国を挙げてプーチンを支援しているイメージが生まれていますが、当然そのようなことはありません。世論調査も信憑性は疑問です。下手なことを言ったら捕まる国だという印象ですが、実際はかなり際どい意見を発表している人がたくさんいます。本当によく分かっています。

富樫… 本日のお話の中で今、われわれが将来を見据えてできることはやはり「人」しかないと確信しました。またロシアが旧ソ連時代に帰ることは考えられませんが、ロシアの若い世代は西側との交流を望んでいるのでしょう。長い目で見て人材を育てることです。先生と同じお話を札幌のIT企業の方たちからうかがいました。これまでロシアと交流してきた企業ですが、今は直接ロシアとのビジネスはやりにくくなっている。ただ、ロシアの人材は魅力的であり、日本企業にとっても大事なパートナーと考えているので、彼らをしっかりと受け入れる仕組みづくりを考えたいということでした。北海道大学など学術機関や自治体、企業が連携して、それが出来る体制を作ることが北海道の日口交流として次のステップかと思っています。

本日はありがとうございました。